



金子三智郎

みちろう

景気浮揚！雇用創出！

県議会報告

発行 金子三智郎

後援会事務所	〒850 0031	長崎市桜町9 6	TEL095 824 4087
組合本部	〒852 8021	長崎市城山町17 58	TEL095 862 7121
自組	〒850 0821	長崎市高平町5 5	TEL095 822 6140

新年特集号

2009

1

平成21年1月1日

第4号

今年も景気浮揚策で
雇用創出をめざして
県議会でがんばります。
ご支援、ご協力よろしく
お願いします。

県議会議員

金子三智郎

謹んで
新春のお慶びを
申し上げます。
二〇〇九年元旦



アメリカに於いては一般的な方式となっておりますが、日本ではまだ十分に浸透して

ません。しかしそれは、建設業界において周知されてい

れば十分に対応できる制度だと考えます。

「県庁舎整備」問題について

移転先、魚市跡地について

当初、県庁舎整備問題は、耐震問題、移転問題が複雑に絡み合い、論点が別方向へと移ってしまい、泥沼化する様相を見せていました。県知事が諮問した「県庁舎整備懇話会」や議会運営委員会が県内5カ所で開催した「県庁舎整備」について県民の声を聴く

回の委員会の開催と2カ所の現地視察を年内に済ませ、新年早々にも委員会開催と学習会の開催、さらに最近建設された県庁舎の2カ所の現地視察を予定しています。

魚市跡地へ移転するとした場合の問題点として出されたもの

・地盤が軟弱では？
長崎の町には地下20メートルの所に強固な岩盤が通っています。その岩盤に基礎を固定すれば非常に強い支持基盤となります。今の夢彩都やアミュプラザもその岩盤を支持基盤としています。

・地震のとき埋立地で液状化現象が発生するのでは？
地質が砂状の場合液状化の心配があります。しかし魚市跡地の埋立地は砂状の地質個所は少なく、また現在の土木技術では液状化を最小限に食い止める施工は可能です。

・水害に十分耐えることができません、一部が欠損しても緊急車両の通行は確保できません。また、万が一孤立しても海路からの交通確保も可能です。このように見れば、魚市跡地への移転の問題点はすべて解決しています。

現在の県庁舎敷地面積は1万5千平方メートル、魚市跡地は全てで5万8千平方メートル、せつかく建て替えるなら、広い敷地に自由な設計で県民が使いやすい建物を建てるべきと考えますが、皆さんはいかがお考えでしょうか。

・災害発生時に県庁舎だけが孤立して、せつかくの防災機能が発揮できないのでは？
今整備している湾岸線は地震・水害に十分耐えることができます、一部が欠損しても緊急車両の通行は確保できます。また、万が一孤立しても海路からの交通確保も可能です。

・秀吉に始まったキリスト教禁教令は江戸幕府へも引き継がれ、キリスト教に係る施設は全て解体されてしまいました。そしてシンボルの地に建てられたのが長崎西奉行所でした。いま県庁を取り巻いている石垣は、奉行所の当時のものです。

幕末には近代化を急ぐ幕府が海軍伝修所を設置し、教科

「県庁舎整備」問題について

跡地の活用について

県庁が江戸町を去つたら、ペンペン草がはえる廢墟になるのでは？ 明かな跡地対策が県から示されていませんから、こうならないとは言えないところがあります。

書にも掲載される歴史的な場所となっております。さらに県庁の眼下には歴史的な遺産である「出島」が長崎市の努力で復元されてきており、江戸時代の町づくりが進んでいきます。

長崎の町は製造業、工業の町には不向きな地形です。平地がなく水が少ない土地です。それに変わる観光立県(言い古されていますが)新しい目であらたに目指すべきです。観光資源は無尽蔵と言えます、「さるく博」が実証されています。その中心となる長崎西奉行所と海軍伝修所を再建すべきだと考えています。いかがでしょうか？

しかし様々な場所での理事者の発言や資料の提示から、おおよそのことは推測できません。一部にわたしの考えを交えて検証してみます。

現在の県庁舎は、昔からシンボルのな場所でした。いち田舎の寒村にポルトガル人が入港して町づくりを始めたときに、長い岬の最先端にシンボルのな建物を建てようと考えたことは自然なことだったでしょう。ここに岬の教会を建て、それに連なる町が作り上げられて長崎の町並みが形成されました。ヨーロッパ的発想の町づくりです。

再来年2010年は長崎を舞台とした「龍馬伝」がNHK大河ドラマで始まります。施設の完成は龍馬伝より後になります。一定のインパクトをもって観光客に受け入れられると思います。



浦上川護岸整備で水害被害

浦上川護岸整備で水害被害

浦上川護岸整備で水害被害

浦上川護岸整備で水害被害



県土木部と 大規模災害支援協定を締結 (6月18日)



後期高齢者医療制度の
廃止を訴える
金子県議(馬町)



難病認定を求める署名
野口昌剛さんに
1万910人分を手渡す
(3月)



第79回長崎地区メーデー(5月)

今年もご支援・ご協力
よろしくお願ひいたします

2008年

おもな活動報告

県土木部長に要請 予想外の低単価、 要請指導強化を(4月)



ものづくりフェスタ(11月)



9月県議会 一般質問

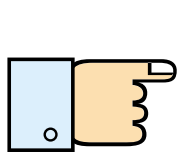


長崎県戦没者
慰霊祭(沖縄)
(11月)



八郎潟干拓地の
浄水施設見学
(8月)

金子県議の活動報告を建設長崎
ホームページをご覧ください。



ココを
クリックして
ください



<http://www.kensetunagasaki.org/>

建設長崎でも検索できます。



「バイオラボ」 百条委設置問題について



されています。県は広報紙で同社を有望企業と紹介し、総額18億円余りの資金調達を行った。

県の調査事項は、①県と県産業振興財団から同社への出資金、補助金を交付する際の審査などの妥当性。②破綻に至るまでの県と財団の関与の実態、としています。

同社は2003年の設立以降、膨大な設備投資を重ねてきたが、1億2千万円の予定だった中国での投資額は8億円弱に膨らみ、長崎の本社ビル取得費も1億2千万円が5億円に膨らんでいる。

その間、同社の新薬開発時の動物実験という事業は、全く軌道に乗っておらず、常軌を逸した経営実態と言わざるを得ないものです。

新年に100条委員会が始まります。経過については引き続きお知らせして行きます。

大教授)の破綻の真相を解明するために、県議会、長崎市議会がそれぞれ、地方自治法100条に基づく調査特別委員会(百条委)を全会一致で設置しました。破綻に至る詳しい事実経過、破綻を招いた様々な局面での久木野社長の責任や監督官庁としての県や市の責任などを具体的に解明し、県民・市民の前に明らかにして行くこととなります。

バイオラボに対する公金は、県から出資金6千万円、補助金4千万円の計1億円、市から補助金8千6百万円が支出

「市民病院の原爆病院との統廃合」

長崎県が長崎市が進めている長崎市民病院の新築立て替えに対して、高機能病院としての機能を持ち、社会問題化している医師不足に対応し得る医療機関として、さらには「救命救急センター」を併せ持つ病院を建設してはとの協力を求めたことに始まっている。

併せて長崎原爆病院との統合案も示し、経営の安定化案を提示している。

一定規模を持ち、一定の施設を持った病院でなければ、新人研修医が集まらず、地域医療の崩壊が危惧されることを受けての申し入れではあつた。

長崎県が市に示したさまざままな条件に際して長崎市も検討を進めていたようですが、12月22日に県に対して42項目に上る確認事項をまとめ回答を求めています。

この問題は、これからどう動くのか、全く予断を許さな

いものです。現時点だけの考えではなく、今後の長崎の医療制度の動きを左右する問題として、十分に見定めて行かなければなりません。まずは1月末に一つの動きがあり、2月には市としての最終対応が出てくると思われ



編集後記

今、皆様方の注目を浴びている問題点を掲載してみました。

本号発行直前に、国内の不当な解雇の風が吹き始めましたが、企業のモラルの低下だけではなく、国内の政治の問題が浮き彫りになってきています。

今後とも皆様方からの声をお待ち致します。



総務委員会

振り込み詐欺撲滅に取り組もう！

県内における「振り込み詐欺」被害が増加している。被害状況は11月末までに被害件数272件、被害総額約3億5000万円を把握した。特に融資保証金詐欺が1500件で最も多く、ほとんどが銀行振り込みでだまし取られるが新たにエクスパック(郵便)により送金させられたケースも多発している。

被害防止対策の他県の事例導入、金融機関への態勢強化などについて提言を行った。

他に、地方機関再編、過疎対策、銃砲刀剣類所持等取締法の一部を改正する法律、県庁舎整備などについて活発に議論を展開した。

文教委員会

副校長及び主幹教諭の適切な配置！

副校長及び主幹教諭の配置、私立学校等に対する助成制度の充実、バイオラボ(株)の経営者である県立大学教授の年次休暇取得、本県の高校生の採用内定取消し状況、「一島一高校」の今後の方針、特別支援学校の分教室の設置基準、フアーレン長崎への今後の支援等に関する議論が活発に行われました。特に、五島市と北松地域(平戸・松浦両市)の住民が要望している、特別支援学校の設置基準で、「10人程度で分教室を検討」との教育長の見解が示されました。

農林水産委員会

原油・食の安全対策に議論が集中

補正予算では焼酎カスを利用した飼料供給システムの設置や、菌床しいたけ栽培の廃オガクズを燃料とするバイオマスボイラーの導入支援に要する経費に約1億円のほか、県民の森と百花台公園の指定管理者の選定を確認すると共に、松浦市鷹島町阿翁浦漁港の浮き防波堤工事締結を承認しました。議案外では平成21年の秋に予定されている「全国育樹祭」準備状況や、原油高騰対策、食の安全、水産物輸出戦略の取り組みなどに議論が集中しました。

各常任委員会報告

厚生環境委員会

高機能病院建設問題に議論が集中

公立病院改革プラン検討協議会の提言を踏まえ、知事が長崎市長に対し、長崎市民病院と日赤長崎原爆病院の再編統合による高機能病院の建設を申し入れた問題について集中審議を行った。医療資源の確保や専門的な高度医療の提供体制の整備の必要性の観点から高機能病院の建設の必要性は了知するものの、長崎市民病院建て替えのこれまでの経緯を踏まえ、県として十分慎重に対応することを求める意見が相次ぎ、今後なお継続して協議することとなった。

土木委員会

総合評価落札方式の見直しを

12月9・10日行われた。
●総合評価落札方式について技術評価は「市や町が評価決定するのは困難では」と県の見解を質した。

建設企画課長は本年度18市町が予定している大半は特別簡易型である。来年度制度改善の予定。

●県内建設業の倒産件数・新分野進出の成果について質した。

建設企画課長は上半期の倒産件数45件で昨年は年間40件で非常に厳しい。

新分野進出は監理課長はモデル事業を取り組んだ。相談は9件あったが成果は上がっていないと説明。

経済労働委員会

100億円の融資貸付を決議！

世界的な金融の危機による深刻な影響を受け、わが長崎県に於いても中小企業に対する年末に向けた資金繰りを緊急に支援する為、議会初日に50億円の融資枠が承認されました。

しかし、融資申し込みが多く、再度補正審議を行い本会議に於いて、合計100億円融資枠にすることが承認されました。

現在延枠は300億円となっています。

また、県が1億円を投入した「バイオラボ」経営破綻問題については、地方自治法に基づき「百条委員会」を設置することが本会議最終日に決定されました。